



ハイアベイラビリティ クラスタの展開シナリオの確認

Cisco DNA Center のハイアベイラビリティ (HA) の実装については『[Cisco Digital Network Architecture Center 管理者ガイド](#)』を参照してください。最初にこの情報を確認してから、実稼働環境に HA を展開するかどうかを決定するようお勧めします。これを選択する場合は、次のタスクを実行します。

1. ネットワークに適した導入手順を実行します。
 - [新しい HA の展開](#)
 - [標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開](#)
 - [非標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開](#)
2. クラスタノード間でサービスを再サービスの再配布します。
3. [HA の展開に関する追加の考慮事項](#)を参照し、必要な追加の設定を行います。
 - [新しい HA の展開 \(1 ページ\)](#)
 - [標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開 \(2 ページ\)](#)
 - [非標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開 \(2 ページ\)](#)
 - [サービスの再配布 \(3 ページ\)](#)
 - [HA の展開に関する追加の考慮事項 \(4 ページ\)](#)

新しい HA の展開

最新の HA クラスタをインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 次のとおり、最初にインストールされたアプライアンスをマスタノードとして設定します。

「[Maglev ウィザードを使用したマスタノードの設定](#)」を参照してください。

ステップ 2 次のとおりクラスタ内の 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定します。

「[Maglev ウィザードを使用したアドオンノードの設定](#)」を参照してください。

標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開

マスタノードが必要なインターフェイスケーブル設定を使用する既存の HA クラスタを展開するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 マスタノードを Cisco DNA Center 1.3 にアップグレードします。

Cisco DNA Center の現在のリリースへのアップグレードの詳細については、『[Cisco Digital Network Architecture Center アップグレードガイド](#)』を参照してください。

ステップ 2 マスタノードに必要なインターフェイスケーブル設定を使用していることを確認します。

「[インターフェイスケーブル接続](#)」を参照してください。

ステップ 3 仮想 IP アドレスを更新します（仮想 IP アドレスがまだ追加されていない場合）。

「[設定ウィザードを使用したアプライアンスの再設定](#)」を参照してください。

ステップ 4 次のとおりクラスタ内の 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定します。

「[Maglev ウィザードを使用したアドオンノードの設定](#)」を参照してください。

ステップ 5 次のコマンドを入力して GlusterFS のサイズを確認します。

```
sudo du -h /data/maglev/srv/maglev-system/glusterfs/mnt/bricks/default_brick/ | tail -1 | awk '{print $1}'
```

GlusterFS ファイルシステムのサイズが 150 GB を超える場合には、「[非標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開](#)」の手順を実行します。

非標準インターフェイス設定を使用したマスタノードの既存 HA の展開

マスタノードが標準以外のインターフェイス設定を使用する既存の HA クラスタを展開するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 マスタノードを Cisco DNA Center 1.3 にアップグレードします。

Cisco DNA Center の現在のリリースへのアップグレードの詳細については、『[Cisco Digital Network Architecture Center アップグレードガイド](#)』を参照してください。

ステップ 2 リモートリポジトリのバックアップを作成します。

『[Cisco Digital Network Architecture Center 管理者ガイド](#)』の「Backup and Restore」の章を参照してください。

ステップ 3 必要なインターフェースケーブル設定を使用して、マスタノードイメージを作成し直します。

「[インターフェースケーブル接続](#)」と「[Cisco DNA Center ISO イメージのインストール](#)」を参照してください。VIP がマスタノードで正しく設定されていることを確認します。

ステップ 4 マスタノードで、バックアップ中に選択したパッケージと同じ一連のパッケージをインストールします。

ステップ 5 ステップ 2 で作成したバックアップファイルを使用して、リモートリポジトリのデータを復元します。

ステップ 6 次のとおりクラスタ内の 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定します。

「[Maglev ウィザードを使用したアドオンノードの設定](#)」を参照してください。

サービスの再配布

Cisco DNA Center の HA の実装については『[Cisco Digital Network Architecture Center 管理者ガイド](#)』を参照してください。最初にこの情報を確認してから、実稼働環境に HA を展開するかどうかを決定するようお勧めします。展開を選択する場合は、次のとおりクラスタノード間でサービスを再配布することによって HA の動作を最適化します。

1.  をクリックして、[システム設定 (System Settings)] を選択します。

[システム360 (System 360)] タブは、デフォルトで表示されます。

2. [ホスト (Hosts)] 領域で、[サービス配布の有効化 (Enable Service Distribution)] をクリックします。

[サービス配布の有効化 (Enable Service Distribution)] をクリックすると、Cisco DNA Center がメンテナンスモードになります。このモードではサービスの再配布が完了するまで Cisco DNA Center を使用できません。HA 展開のスケジュールを設定する場合は、このことを考慮する必要があります。



(注) Cisco DNA Center は、データベースの復元、システムアップグレード (パッケージアップグレードではない) の実行、HA のサービス再配布の有効化を実行するたび、(前述のとおり) メンテナンスモードになります。

HA の展開に関する追加の考慮事項

既存の HA の導入では、次の追加設定を行う必要があります。



(注) 既知の HA のバグと回避策については、『[Cisco Digital Network Architecture Center リリースノート](#)』の「未解決のバグ - HA」を参照してください。

テレメトリ

(VIP を有効にせずに) デバイスのテレメトリを有効にした場合には、次の手順を実行します。

ステップ 1 `maglev-config update` コマンドを使用して、クラスタ VIP を更新します。

ステップ 2 デバイスでテレメトリを無効にします。

1. Cisco DNA Center ホームページで [ツール (Tools)] エリアの [ネットワークテレメトリ (Network Telemetry)] を選択します。
[テレメトリ (Telemetry)] ウィンドウが表示されます。
2. [サイトの表示 (Site View)] タブをクリックします。
3. テレメトリを無効にするデバイスのチェックボックスをオンにします。次に、[アクション (Actions)] > [テレメトリの無効化 (Disable Telemetry)] を選択します。

ステップ 3 以前デバイスに関連付けたプロファイルを使用して、テレメトリをもう一度有効にします。

ワイヤレス コントローラ

ネットワーク内のワイヤレスコントローラを、Cisco DNA Center の新しい VIP で更新する必要があります。